

氏名	井 上 浩 一
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 803 号
学位授与の日付	昭和 51 年 9 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 5 条第 2 項該当)
学位論文題目	心臓刺激伝導系の心室内分布に関する形態学的研究
論文審査委員	教授 大内 弘    教授 新見 嘉兵衛    教授 砂田 輝 武

### 学位論文内容の要旨

各種は乳類（ヒト、サル、ウシ、ブタ、ヤギ、イヌ、ネコ、ウサギ、モルモット、ラット、マウス）を用いて、心臓刺激伝導系の末梢枝である Purkinje 線維の心室心内膜直下と心筋層内への分布状態を Otsuka と Hara 法、PAS 法、Masson-Goldner 法、ヘマトキシリン・エオジン法で観察した。ウシ、ブタ、ヤギ、サル、イヌでは心室心内膜直下に Purkinje 線維の分布が観察されたが、その分布状態は動物により多少異なっていた。ヒトでは死後時間が長く Purkinje 線維の走行を観察することができなかつた。ネコ、ウサギ、モルモット、ラット、マウスでは心室心内膜直下の Purkinje 線維の分布を Otsuka と Hara 法では観察できなかった。

一方、心室心筋層内への Purkinje 線維の分布状態を観察すると、ウシ、ブタ、ヤギの蹄類では心筋層内へ深く進入して、一般心筋線維に移行している像が認められたが、実験に使用されたその他の動物では心筋層の深くまで Purkinje 線維は進入せずに心内膜直下で一般心筋線維に移行していく像が認められた。

このような Purkinje 線維の分布状態に動物差があることは、生理学的にも心室内の興奮の伝達にも動物による変化があることを示唆するものである。

### 論文審査の結果の要旨

本研究は各種哺乳類心臓房室系の心室内分布を研究し、従来十分知られていなかった著しい動物差の存在を明かにしたものであって、刺激伝導系の機能の解明に資する重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。